

令和5年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：令和6年3月15日（金） 午後2時00分～3時40分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 3人出席

委員長 小島 道裕

副委員長 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 島立 理子

（教育委員会）

生涯学習部 齋木部長

文化財課 君塚課長、蚊谷室長、森本主査

（事務局）

加曾利貝塚博物館 神野館長、後藤副館長、長原主査

郷土博物館 天野館長、芦田副館長、錦織主査

4 議 題

- (1) 令和6年度の予算（案）と事業予定について
- (2) 郷土博物館の展示リニューアルについて
- (3) その他

5 議事概要及び議事結果

- (1) 令和6年度の予算（案）と事業予定について
加曾利貝塚博物館、特別史跡加曾利貝塚新博物館の整備、郷土博物館の令和6年度予算（案）と事業予定について説明し、各委員から意見が出された。
- (2) 郷土博物館の展示リニューアルについて
郷土博物館より展示リニューアルの設計概要について説明し、各委員から質問や意見が出された。
- (3) その他
次回の開催の予定について、事務局から説明を行った。

6 会議経過

錦織主査の司会進行により会議が開会。会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していること、千葉市情報公開条例第25条に基づき会議を公開していることを告げた。続いて齋木部長が挨拶を行った後、小島委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）令和6年度の予算（案）と事業予定について

< 説明 >

加曾利貝塚博物館から令和6年度の予算（案）と事業予定について説明を行った後、文化財課新博物館整備室より特別史跡加曾利貝塚新博物館の整備の現状について説明を行い、その後、郷土博物館から、令和6年度の予算（案）と事業予定について説明した。

< 質疑応答等 >

小島委員長 ただいま、事務局から説明があったので、ここからは、委員から質問や意見をいただきたい。

齋木部長 その前に一つよいか。資料の4ページ目、四角で囲んだ上の部分、新博物館の整備で、「建設費の安定が認められれば速やかにリスタートができるよう」としているが、私が冒頭の挨拶でも述べた通り、今後、物価の上昇が続くことも想定され、さらに先延ばしになる恐れもあることから、条件面等を見直しながら、入札に応えてもらえるように努力をして、早めに対応できるようにしたいと考えている。

小島委員長 つまり入札にかかる中身も含めて見直すということで、安くなったらということではないと。これについても後ほど議論していきたい。

それでは、加曾利貝塚博物館の方から先に質疑を行いたいと思う。新博物館整備の問題もあるが、まずは来年度の予算（案）と事業予定について何か質問・意見はあるか。

島立委員 2ページ目の『博物館紀要』について、デジタルデータとして公開ということだが、これは、印刷物としては出さないということか。

神野館長 基本そういう考え方である。今までも紙媒体で出すためにいろいろ努力をしてきた。考古系の論文は長いとか図版が多いとかでコストのかかる部分がある。また、執筆希望者の市専門職員など多く、どうしてもページ数が増える傾向にある。これまでは発行部数を見直すなどして、なるべく印刷物として出す形でやってきたが、昨今の印刷費の値上がり状況を見ると、これ以上は難しいと考えて、次年度からはデジタルデータとして公開する形を考えているということである。

島立委員 どこの博物館も紀要などをどんどんデジタル化していて、学会などでも、今ほとんどデジタル化されてきている。時代の流れかなとは思いますが、私のような古い人間だとちょっと紙が懐かしい感じがする。

小島委員長 私が以前勤めていた国立歴史民俗博物館では研究報告という刊行物をずっと出しているが、これもデジタル化されて紙媒体は最新号からなくなっ

た。これにはメリットデメリット両方あると思う。デジタルデータの場合にはリンク先だけをメールで送れば、それで誰にでも届くという簡便で把握しやすい面があるが、紙媒体を必要とする人には届かないので、結局、PDFのデータをもらって、執筆者が自分で印刷することになる。こうしたデメリットを補う工夫が必要になってくると思う。図書館でも紙媒体の本がなくなってくると閲覧をどうするのが問題になる。逆に、デジタル化することによって広く届ける。あるいはお金をかけないようにするとカラー化するということがいろいろできるわけで、やはりメリットデメリットをよく考えて対応をお願いしたい。

鈴木委員 本として物理的に存在していないと、どうしても見過ごされる可能性がある。多分、今の図書館ではデジタルデータを受入れて検索できるようにはなるとは思うが、図書館から物理的に消えるということが起こるので、そこがどうなのか。それから大きな図書館であれば問題無いと思うが、小さな図書館でデジタルデータをきちんと整理できるのか心配がある。また、博物館同士で資料を交換していたりするが、小規模なところでデジタルデータをきちんと整理して保存・活用できるのかも心配である。

齋木部長 生涯学習館部は図書館も所管しているが、徐々にアーカイブ化していくことを計画しようと考えている。特に古い図書については、劣化してしまうので、データ化が必要である。ただ、データが見られない人もいるので、パソコンやタブレットを用意して、それらの使い方も説明するなど見てもらえる工夫をしていかなければいけないと考えている。

小島委員長 ぜひお願いしたい。やはりアーカイブ化をすると図書館に行かなくてもネット上で見られるというメリットもあるので、図書館も一緒に管轄しているのであれば、連動して発展的に良い方に向かっていくように考えていただきたい。

島立委員 デジタルデータを作るのは職員か、それとも印刷業者に頼むのか。

神野館長 今は職員が作っている。それができる職員がいるので今は可能だが、これが持続的に確保できるか、技術のノウハウを続けていけるのかが重要な課題になってくる。

島立委員 デジタルデータは気軽にらせるが、どうしても職員の負担が増えてしまう。予算化してデジタル化という方法もあるので考えてほしい。

小島委員長 むしろこれはデジタル化に伴う問題かもしれない。紀要だけではなくて、デジタル化とそれによる発信をどのように構築し直していくか、その辺り

を今後検討していただければと思う。

鈴木委員

これは半分冗談のような話であるが、発掘したときに出てこないものは歴史から消えてしまうことになる。デジタルデータの長期保存上の脆弱さは指摘されていると思うが、土器のように、将来物理的なモノとして出てこない、その当時の生活や文化がわからないということになるだろう。その意味からすると、今の生活では多量のプラスチックしか残らず、文化が全く残らないことになる。それだったら粘土板などに書いてあった方が残ることになるので、やはり物理的に何か残さないとまずいのではないかと個人的には心配している。電子データにはメリットはあるが、もし今使っている情報機器など、電子的なものが全て使えなくなったときにどうするのか。

小島委員長

最低限何部か打ち出して、保存しておくなどの対応が必要かもしれない。その辺りはまた検討してほしい。

広田副委員長

県立図書館の建設のときにも危惧された問題だが、博物館と公文書館との役割分担が重要になってくると思う。昨今、DX化と言われているが、やはり理想と現実的なことで言うと、私も、紙媒体で打ち出して見る人間だが、デジタル化することによって、多数派ができるというメリットがある。またはコストの問題で図書館を作るときに、どれだけ収蔵するかによって、紙媒体であればどんどんスペースが必要になってくる。もう一つは、古い基準書というものがあるが、それらは必要があるにも関わらずどんどん無くなっていて、それを持ち出すためにもデジタルデータがあると有効だということで建築学協会がそちらの方に向いている。だから、一般的な利用と図書館、文書館がデジタル化の役割分担を明確にして、より現実的な落としどころを検討する必要がある。

小島委員長

デジタル化は大きな問題なので、市としても総合的に考えて、博物館単体では費用や人的な面でも限りがあると思うので、それを全体で何とか支援できるようにしてもらえると良い。

広田副委員長

建設費については、これから能登の復興や大阪万博の関係で建築業界は多分、落ち着かない方向に行くだろうと考えている。まさに、寿司屋のカウンターの時価のような状態になってきている。大手5社が集まって、今の建設業界を悪い方に導かないよう国にお願いしたりしているが、結局は国の方から万博に参加してくれと言われると、そっちの方に取られてしまって、民間ベースではどんどん高騰することになってしまっている。建築学会で昨年末に、その問題について国交省に意見書を出そうということになったときに、経済の問題よりも、国の政策が物価を高騰する方に動かし

ているというような話になったが、最終的に政府に出した会長のコメントというのは「もの作りの世界をもっと楽しいものにしてほしい」という少し柔らかいものになった。そういうことを考えたときに、後ろの方にはリニューアルとは別に郷土博物館の設備改修のことが書かれているが、この設備機器の関連が今問題になっていて、賢いところでは今は動かないという選択をしているところがほとんどではないか。

小島委員長 新博物館整備の問題が大きいのでそこを含めた議論にしたいと思う。

島立委員 千葉県立中央博物館でも館の見直しを進めており、将来的に博物館をどうしていくかという議論をしているが、それとは別に、博物館が造られてから30年が経過しており、設備のあちらこちらで修理が必要になってきている。しかしながら新しい博物館の話が動いているので修理してもらえないという状況も出てきている。現在の加曽利貝塚博物館もかなりの年数が経っていると思うので、設備についてはすごく気になっていて、今後さらに計画が延びていったときに、修繕とか入れられるのかが気になった。

神野館長 状況次第という話になるだろう。先ほど出ていた話では、気になっている部分としてはLEDにするかどうかという判断があり、それは新博物館の方向性と合わせて考えていくことになるかと思う。

蚊谷室長 そもそも新博物館整備の開館時期は、当初令和3年度に基本計画作ったとき9年開館ということにしており、その時の千葉市の意思決定では、令和9年の開館なので、そこまでは現博物館については小破修繕でしのぐというような計画だった。しかしながら今それが令和10年からさらに遅れるということで、前提条件が変わってきているので、やはり現博物館を維持するための修繕、場合によっては改修というものも今後行っていかなければならないと考えている。従ってもう令和6年度の予算は決まっているが、令和7年度予算の要望時には、現博物館の改修で当面の令和十何年まで維持させるために必要なものについては見積もる必要があると考えている。新博物館整備については、今広田委員からお話があったとおり、本当に今設備工事を発注するゼネコンが困っている状況で、突き詰めればこれが大元の元凶だと考えている。従ってやはり設備工事、実際この新博物館整備を発注するのは、入札してから1年後になるので、その1年後に設備工事費がいくらになっているかをしっかりと見定めた上で、予定価格を再設定することが肝要だと考えている。そのため、ある程度予測可能な範囲に、上昇率が収まってくるというのが、一つの時期を決める上でのポイントと考えている。

小島委員長 新博物館建設の見込みがなかなか立たないという状況だが、前にも申し

上げたが、博物館の活動というものは建物が無いとできないことだけでは決まないので、その間、様々なソフト事業的なこと、デジタル化も含めてできると思うし、そちらをむしろ検討してもらって報告してもらえればと思っている。一つ聞きたいのは、今更ではあるが、この新博物館というのは現状の加曽利貝塚博物館がリニューアルして加曽利貝塚博物館の新しい建物ができるのか、それとも加曽利博物館を廃止して全く新しい博物館ができるのか、どちらなのか。

蚊谷室長 その点については移設・新設という形で、今の史跡の外、坂月川の対岸に移る予定である。

小島委員長 場所は分かっているが、組織としてはどうなのか。継承関係はどうなるのか、一度切れてしまうのか、それとも今の組織が場所を移して継続するのか。つまり看板は掛け変わるのかということである。今の博物館は廃止されるのか。

蚊谷室長 今博物館は廃止ということではなくて、今の博物館を移転させるということである。

小島委員長 今の博物館を移転させて新しい建物で再スタートするということがよいか。

広田副委員長 そこに機能がプラスされる。今の加曽利貝塚博物館にプラスアルファされるという位置づけだ。

蚊谷室長 機能の拡充は当然される。

小島委員長 名前は加曽利貝塚博物館か。

蚊谷室長 名称については、基本計画策定時に附属機関の委員から、名称については慎重に開館までに検討してほしいという付帯意見がついているので、開館までの時間の中で、適切な名称は検討していく。

広田委員 ずっと仮称のままで動いている。

小島委員長 ずっと仮称でもよいのだが、新しい博物館の開館が先延ばしになるとその間何をしているのか非常に気になってくる。名前は変わるかもしれないが組織的に同じ博物館が続くというのであれば、今から始めたっていい。開館に向けていろんな事業を立ち上げて、盛り上げていくなどやることはいくらでもあると思う。職員も採用されて、新しい人材が入ってきている

のに、何で新しい事業がないのか、ちょっと不思議に思っている。

広田委員

多分、判断する基準が行政側の我慢を超えてしまった価格だったのだと思う。今回の計画は要求水準を相当密に詰めているが、アバウトな計画だと、金額もブラックボックスに入ってアバウトなものになってしまうが、要求水準をきっちり詰めた計画は、なかなかコストも下がらない。要は、良い意味で適正価格をはじき出して、その適正価格と言われているものが、行政が考えている限界を超えてしまった。その限界を超えたときに我慢すべきなのか、将来待つべきなのかは難しい判断だったと思うが、一般的には先送りして、いい状態にならない予測の方が多い。そうすると、今我慢しないで工事してしまった方が良い。

齋木部長

室長からも話があったとおり、本当に適正価格かどうかを見極めることが重要なので、今後、様々な事業者ヒアリングし、意見を聞きながら見定めていこうと考えている。

小島委員長

そうすると、今まではもうこの年度に新しい建物ができるから、そこに合わせて何をするかという発想でずっとやってきたと思うが、その前提が崩れてきているし、予定していた建物もどうもフルスペックのものは作れそうにない。だから、縮小するのか第1次、第2次と分けるのかはわからないが、そうするとそこで何をするかという中身の方が、逆に問われてくるし、いつからどう始めるかの計画の方がおそらく重要になってくる。いつも聞いているが職員採用はどうなっているか。

君塚課長

職員採用については、今年度、経験者枠と新卒枠を募集した。経験者枠については残念ながら合格者が出なかったが、新卒枠では2名の合格者が出ているが、この2人が千葉市に入ってきてくれるかどうかはまだ分からない。

蚊谷室長

職員採用については、この新博物館の整備を決定してから、若干名コンスタントに採用しており、令和4年度に採用した職員は、埋蔵文化財包蔵地になっている新博物館整備予定地の発掘作業に従事した。また、先ほど展示室内の構成の検討と申し上げたが、今の市職員が中心になり、外部の大学教授の監修を受けながら進めている。そうした検討会に参加するなど外部から来た職員の新たな知見を現地スタッフに取り入れることができるようになってきたので、徐々にではあるが人材採用の効果も生まれつつある。ただし、経費を伴う機運醸成というものは、実はDBO事業の中に含んでいる。事業契約ができれば、目に見える形で機運醸成のイベントなども要求水準の中に入っているのでできるのだが、それが今まだスタートラインにつけていない。その間、この空白をどのように埋めるかについて、

現博物館と協議した上で、どのように人々の関心を繋いでいけるかを考えなければいけないと思っている。

小島委員長　よくわかった。つまりコンソーシアムにしてしまったがために、ただ建物を作る以外のそういう機運醸成のようなソフト面も遅れている。契約しないと業者がやってくれないからできないという部分が出てしまったというわけか。ただ、今述べられた通りDBOの成立を待つのではなくて、今からできることをしてほしいと思う。職員については、こういう専門家を採ったということを広報してもいいくらいだと私は思っている。ぜひ世界に冠たる新石器時代博物館を作ろうというのだから、頑張してほしい。

小島委員長　それでは時間もあるのでとりあえず一旦おいて、郷土博物館の予算案と事業予定について委員の皆様より質問・意見をお願いしたい。

鈴木委員　郷土博物館の改修でリニューアルには入っていない部分で、トイレとか、照明を修繕するということが、これは素晴らしいと思う。特にトイレが綺麗かどうかは来た人にとってたいへん重要だと思う。今のトイレも清掃が行き届いていると思うが、駅のトイレも近年改修されてかなり綺麗になっているような状況があり、来館者の目も厳しくなっていると思う。

小島委員長　今回、リニューアルの資料も出ていて、これからどうなるのかも含めて委員の皆様も非常に気になっていることだと思う、先に展示リニューアルについても説明してもらい、それから郷土博物館全体について議論することにしたい。

議事（２）郷土博物館の展示リニューアルについて

< 説 明 >

郷土博物館より今年度進めてきた展示リニューアル設計の概要について説明を行った。

小島委員長　今年の秋からリニューアルに入るということで、本日審議している6年度の事業案の後半にはもうリニューアルが入ってくるということなので、両方含めた形で、質問ご意見をいただければと思う。

鈴木委員　私が一番注目したのは、千葉の始まりというところで、これまで私が千葉で生まれ育って一度も聞いたことがないが、千葉の名前の始まりを木簡で見せるというところはたいへん興味がある。千葉は美しい名前ではあるが、その発祥については疑問に思ったりしている。こういったことが最初に示されるというのは、良いのではないか。千葉氏はよく聞くけれども「そもそも千葉って何？」みたいなことがあると思うので、良いと思う。若干

気になるのはAR千葉介である。これはこれで、効果があると思うが、重要なのは、ソフトウェアというものは必ずいつか更新しなければならないということである。作り込みすぎるとお金がかかるということがあるし、また、キャラクターは出てきた方がいいのか、ない方がいいのか、出てくるとしたらどういうキャラクターがいいのか。また、親しんでもらうためにはどういう設定をしたらいいのかということがある。これを業者に任せると、唐突に何かよくわからないキャラクターが出てくることで違和感を覚えたりすることもあり得る。しっかりキャラクターが作り込まれておらず、さらっと作ってそこだけしか出てこない、あまり効果がなくて、むしろ普通に誰かパーソナリティに解説してもらった方が遥かに良いということがあるだろう。あまり子供を子供扱いしない方がいいということも言われるが、ここは少し考えた方がよい。ソフトウェアはそもそも5～10年経ったときに更新されるものなので、その予算を組めるのかということを考えておかなければいけない。また、微調整もする必要が出てくると思う。内容がふさわしくないとか、間違っていたとか、そういうことがあるので、修正がしやすいような計画をしていかないといけない。特に常設展示の場合、大変なことになる。そうでないと、予算がなくて更新できないことになり、いずれソフトウェア自体が使えなくなってしまう。そういったことから、ソフトウェアに関しては気を付けた方がいいと思う。この千葉介を使うのであれば、最初にしっかりと計画書でキャラクターの設定をしてもらわないと駄目だと思う。それこそ千葉市中にもそのキャラクターがいるというくらい作り込んで、親しまれていないと、多分、今の子供を考えると難しいかなと思う。

天野館長

おっしゃる通り、どこの博物館に行ってもこうしたデジタルの映像機材というのは、暗くなっていて、ただいま修繕中となっていることが多い。そこを今後どういうふうに予算的に措置するかについては考えていかなければいけないと思う。あと、キャラクターは業者というよりこちらが提案してやってもらったもので、「千葉介」はもちろん千葉介だが、「きさごちゃん」はイボキサゴから取った名前でも海を象徴する精というキャラクター設定をしている。あと陸の象徴が「のまおくん」で野馬から付けている。このキャラクター設定と自己紹介は1階に入ったところに表示するし、給食の展示部分ではこのキャラクターたちが案内するような設定を作っている。また、階上に行っても子供たちがそれぞれの疑問を千葉介に尋ねながら展示が進んでいくという設定を考えている。

小島委員長

著作権は大丈夫か。著作権は全部譲り渡してもらわないと、そこはよく揉める部分である。

錦織主査

現在考えている仕様では、著作権は市側に属する旨を明記している。

- 島立委員 博物館の展示ソフトに関して、ソフト自体の著作権が展示制作会社にある、更新が自分たちでできない場合がある。著作権については本当に細かく確認しておいた方がよい。お金が必ずかかるような仕組みになっている場合がある。
- 錦織主査 一応業者とも調整しているが、おっしゃる通りたいへん重要な問題なので、遺漏の無いように細心の注意をはらっていききたい。
- 天野館長 競争入札はこれからなので、業者が決まるのは次年度に入ってからになる。
- 小島委員長 後で揉めるので、よく書き込んでおいたほうがよい。
- 鈴木委員 自分たちで更新できるのが一番いいと思うが、設計によっては技術的に難しいということがあるので、どうしても業者に頼むことになる。
- 小島委員長 最初もお金がかかるし、後で更新するとまたお金取られることになるので、その辺はよくよく考えておいたほうがよい。
- 鈴木委員 修正は多分頻繁に出てくると思う。細かい説明をすればするほど後日修正が必要になってくると思う。
- 小島委員長 パネルなら簡単にできることが、デジタルにしたばかりにできないということが往々にしてある。
- 島立委員 企画展示室ができるのはすごくいいと思っていて、せっかく良い企画展をしているのに、常設展を潰す形になっているので、そんなに広くはないと思うが、こうやって企画展示室ができるのは良いと思う。あと、市民と博物館を繋ぐとあるが、周辺地域ということで県立中央博物館とも連携をお願いしたい。
- 天野館長 こちらこそ、よろしくお願ひしたい。
- 島立委員 あと5階の千葉一望ラウンジは周囲の景観が一望できる場所なので、そこを作り込むというのは、すごく良いと思う。
- 広田副委員長 まず基本的なところを確認したい。資料の設計概要書だが、これは複数社によるコンペなのか。その内容が以前博物館の在り方検討の中で、各階を何に使うかを考えていたと思うが、ゾーニングについては館側の要求が

あって、それぞれの提案があるということか。

天野館長 そうである。私達からこういうゾーニングにしてくれということをお知らせして、それに基づいて業者に検討してもらったということである。

広田副委員長 内容は読み込んでいないのでわからないところはあるのだが、最初の方に通史という言葉がたくさん出てくるが、実際には通史になっていないのではないかという感じを受けた。スペース的に仕方ないのかもしれないが、今までの協議会の議論の中で、近代から現代が手薄になっていて千葉氏の時代がほとんどではないかということが議論されていて、その中で近世、陸と海の結節点というところで近現代まで2階のスペースが出来たのはとても嬉しいと思うが、次が千葉氏の時代になってしまっている。近現代から千葉氏までの間が結構空いているように感じた。

天野館長 千葉一族が減びるのは、小田原攻めの時なので3階に入る。その後関東には家康が入ってくるということで、2階の半分は近世、要するに江戸時代の展示になる。ちょうど正面のところは民俗的な祭礼などの展示になり、残りの半分が明治以降の近現代ということになって、最後政令市移行の頃までを展示して終わりになるという流れとなる。細かくはできないが、一応通史として、ざっくり歴史を追えるようには構成している。

広田副委員長 やはり博物館で気になるのが、作り込みすぎだと思う。先ほど鈴木委員がおっしゃったように、あまりデジタル化し過ぎないように十分注意した方がいいと思う。また、私も1階部分に企画展示室を設けたのは正解だと思う。あと、デジタル資料を閲覧できるスペースなどがあり、図書館とか文書館とデータを共有できるようになっていると良いと思った。その予算が無ければデータ作成は県に任せて、システムに繋ぐだけということもできるのではないか。

小島委員長 やはり、先ほどのデジタル化の問題に戻ってくると思うが、単体の館ではやりきれない問題で、生涯学習部がせっかく様々な施設を管轄して意欲的に取り組もうとしているので、デジタル化するといろいろな連携が広がる。そういう強みがあるので、県の方にもうまく話を持って行っていただければと思う。本当にデジタルは厄介で、私がいた歴博には館内にデジタル系の職員がおり、教員もいて研究もしていたので、展示で何か作っても、簡単にいじれてよかったが、それがなくていちいち業者にやってもらっていたら大変なことになっていたと思う。パネルならば誰でも直せるものが、全部業者を通さないとできないということではたいへんなことになるので、本当は内部に職員がいた方がいい。県と市が何か共通のフォーマットを作って、その上で物を作るとか何かやりようがあると思うが、これはよ

く考えていかないと後で大変なことになる。

広田副委員長 直ぐに古く感じてしまう。

小島委員長 中身も古くなるし、仕組みとしてもすぐ古臭くなるから、かえってパネルにしておいて、随時更新した方が良かったということが経験知としてある。

天野館長 幸いなのかどうかかわからないが、元々はもうちょっと複雑なAR的なものであったのが、予算の関係でどんどん削られて、結果的に非常に単純明快なものしか残ってない状態である。あまりに複雑で、余計な動きを伴う内容のものが多くと何度か繰り返していると鼻につくことがあると思うが、そういうことにはなっていない。

広田副委員長 海外では、これが展示なのか、まだ未整備なのではなかと思うようなものが相当に目につく。日本の博物館の特徴は、作りすぎているところだと思う。エジプトなどに行くと新しいものがどんどん出てきているので、ケースに入っていないこともある。スペースの関係あるので、その辺バランスを考えてあまり作り込まない方がよい。

小島委員長 業者はすぐに作り込もうとするので、そのペースに乗せられるとちょっと後がたいへんになる。

歴史が専門なので私からも意見を言わせてもらうが、通史という問題がどこまできちんと盛り込まれるかが一番気になる場所である。現状だと全ての時代の要素は入っているが、やはりトピックを取り上げて散りばめただけのような印象を受ける。これを見ている限りでは、何でそれがこう変わっていったのかとか、今の千葉とどういう関係があるのかなど、これを見て果たして理解できるかというのが少し疑問に思う。こういう珍しいものがあつたということは興味持ってもらえるだろうが、やはりそれでは地域の歴史博物館としては足りないと思う。例えば縄文が出てくるが、次がもう乗馬体験になって、縄文の次が武士なのかということになってしまう。そうすると時代的にも隔たっているし、縄文の生活から武士の生活というある意味関係ないものが出てくるので、それがどう繋がるのか歴史がどうなつてこうなつたのかが全然見えてこない。例えば荘園というものがあつて、地域というものが荘園で成り立っていた時代があつたということを入れると、その生活と武士が出てきた背景とかが多分うまく繋がると思う。例えばそういうことについてはどのように考えているか。

天野館長 確かに、この資料は目玉的なものしか載せていないのでそのように見えるかもしれない。4階の展示の中では縄文・弥生・古墳と古代も、どのよ

うに国の支配がなされていて、そのときにどのように人々が暮らしていたのかということは、展示では作ることになる。その中に千葉という名前が出てくるとのことだ。あと、我々が一番気を付けて考えているのは転換期で、今までは、原始・古代、中世、近世、近現代と別々に展示がなされていたと思うが、例えば古代から中世に移るときに、社会そのものが変わってきている。古代的な世界が壊れて、次の時代に移り変わっていく時代がある。そのため転換期のパネルを設けて、そこに千葉でどのような変化が起こっているかが、古代の世界が壊れる一方で、新たな社会が生まれつつ、次の新しい時代の息吹が感じられる。それが武士の起こりに繋がっていくといったように、各時代間を繋いでいこうと考えているところである。

小島委員長 素晴らしいと思う。ただそれをどうやって視覚化するか。

天野館長 そこが難しいが、それをやらないと何で時代が変わって、何が古代なのか中世なのかということがわからない。ただ歴史がダラダラと流れているのではいけないと思っている。

広田副委員長 子供たちにとって、例えば古代と近世でどちらが昔なのかという、つまりそういうところだと思う。例えば企画展示室に年表があって、ここからここまでは3階に展示してあるっていうことをビジュアルで示すことは基本だと思う。また、今回の企画展はどこの部分をテーマにしているのかということが中身よりもまず、ビジュアルに示して、子供たちから把握してもらえるような、見える化してもらえるとよいのではないか。

天野館長 5階の年表に時代ごとの色分けがあって、ダイナミックラインも色を変えていく。転換期は二つの色が混じって次の色に変わっていくというようなものになると思うが、そのような工夫をしながら、時代の移り変わりど、如何なる社会になっていったのかというのが理解できるようにしていきたいというのが我々の考えである。

小島委員長 あと、やはり地域博物館なので、その地域の様子はどうだったのかということが決定的に大事である。その際、地図的な視覚化が大事だと思うが、今回いただいた資料だと4ページに中世の街並みグラフィックというのがあって、これはもう各時代に不可欠だろうと思う。特に一番大事なのが、前にはジオラマがあるといいと言っていた近世の千葉港である。これがどうだったのかわからないと、今の千葉市が何でこうなっているのかということが全然理解できないと思う。その辺りはどのようにする予定なのか。

天野館長 残念ながらジオラマは予算の関係で作れないのだが、今おっしゃっている通り、開府900年を機会に今回リニューアルするわけだが、皆さん、

開府900年という千葉氏のことばかりを言うのだが、開府900年というのは千葉氏がここに来てから今に至るまでが900年なので、つまり、近世も近現代も町の骨格は千葉の場合、実は中世とそれほど変わっていない。これがどう引き継がれていって今に伝わっているのかということ念頭に置いた上で、近世においては港の機能が引き継がれているということ意識しながら、解説を加えたりしていかなければいけないと思っている。もちろん近現代もそうである。

広田副委員長 地図についてはこれまでもかなり意見として出ていたが。

小島委員長 江戸時代の街並みのようなものはぜひ作ってもらいたいと思う。

天野館長 とにかく地図で場所が特定できないと、どこの話をしているか分からないので、それが分かるようにしていこうと話している。

小島委員長 市内の小中学生が来たら自分たちの家がここだということがわかるかどうかで理解が全然違うと思う。あと佐倉藩の港が千葉にあったので、もう少し広域の県レベルというか、千葉市だけで独立して存在していたわけではないので、広域の関係地図みたいなものが欲しい。その辺をぜひ検討してほしい。

天野館長 明治の最初の部分にはフランス式の迅速図で市域全体を提示する。明治になった頃の千葉がどのようなところだったのかイメージできるようにしたい。また、迅速図には要所に絵がついているので、イメージもしやすいと思っている。

広田副委員長 ぜひお金には関係なく、高かろうではなく、本当に手で作り込めるような博物館にしていいただきたい。

鈴木委員 リニューアルについて皆さんの話を聞いていて感じたが、半世紀ぐらい千葉にいても知らないことが多くて、実はこの資料にも知らないことばかり書いてある。先ほどもあったようにその展示が今とどう関係しているのかが重要だと思うが、私には千葉についてわからないことがたくさんあって、まず、なぜ千葉市がこれだけ発展したのかということがある。五大力船という船をピックアップして展示するとあるが、これは千葉の港が元々発展していて、近代になってそこに県庁を置いたということなのか。県庁が置かれればそこから発展していったことがわかる。その後、陸軍施設があったということが影響しているとは思いますが、その辺、できるだけイメージしやすく展示してもらえると良い。何で発展したか、私はよく知らない。知っている方もいるとは思いますが、多くの市民が知らないだろうし、特

に私の世代だとそういう教育を受けてないと思う。千葉市のアイデンティティということ言うのであれば、名前がなぜ千葉なのかから始まって、なぜ近代になってから急に100万都市になったのかというところをわかりやすくしなければいけない。これは先ほどの視覚化の話と関わってくると思う。

島立委員 リニューアルではないが、資料の6ページにある出前授業・館内学習が通年となっているが、館内学習は閉館中できないと思うが、出前授業は休館中も行うのか。

天野館長 出前授業はリニューアルとは直接関係ないので、小中学校からの要望には応えていく予定である。特に小学校からはたくさん要望が来ている。この前は逆にこちらからの提案で、東京の本所区の子どもたちが学童疎開で市内の学校に来ていたことを出前授業で取り上げたりもした。学校からの要望で授業を作ることもあるし、博物館側から提案することもあるなど広がりが出てきていて、良い方向に来ていると思っている。ただ、エドゥケーターの勤務時間が少ないので今後少しでも増やしていければと思っている。

鈴木委員 燻蒸は元々環境に良くない薬剤を使っていたが、今どういう方法で行っているのか、教えてほしい。

芦田副館長 当館には燻蒸設備が無いので、業者の施設に運んで薬剤で燻蒸してもらっている。

鈴木委員 薬剤は何を使っているか。

島立委員 現在は、アルプとヴァイケーンというのがメジャーで使われている。

芦田副館長 当館が使用しているのは、アルプである。

島立委員 アルプの方が環境にやさしい。

小島委員長 ではだいぶ時間を超過してしまったので、そろそろまとめたいと思うが、来年度の事業、それからリニューアルについては今出た意見を踏まえて実施してほしいと思う。他に事務局より他にあるか。

天野館長 次回、令和6年度の第1回協議会の日程については、8月下旬の予定で調整をしたいと考えている。後日、連絡させていただくのでよろしく願いしたい。

小島委員長 他に何かあるか。なければ、本日の議事はここで終了する。

問い合わせ先 千葉市立加曽利貝塚博物館
TEL 043-231-0129
千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231